農 業 技 術 情 報

令和５年８月１５日

池田町農業構造政策推進協議会

十勝農業改良普及センター
十勝東部支所　015-572-3128
ＪＡ十勝池田町　572-3131
高島支所　573-2111
池田町産業振興課　572-3118

農作物の生育・作業の遅速（8月15日現在）　（ ）内は平年値　移植てん菜のみ 3 町平年値の平均

作　物　名	遅速日数	生　育　状　況		農作業状況
ばれいしょ	+2	茎長　73.8 (87.3)cm 茎数　3.9 (3.6)本	茎葉黄変 8/7 (8/ 9)	
大豆	+12	茎長　84.9 (72.3)cm 葉数　10.4 (9.6)枚	着莢数　莢/㎡ 593.0(384.6)	
小豆	+10	茎長　59.3 (52.0) 葉数　12.1 (9.5)	着莢数　莢/㎡ 276.4(111.6)	
菜豆（金時）	+10	茎長　57.3 (47.6) 葉数　4.1 (4.1)	着莢数　莢/㎡ 161.4(127.1)	
菜豆（手亡）	+10	茎長　55.5 (52.5) 葉数　7.6 (7.4)	着莢数　莢/㎡ 367.2(197.0)	
てん菜（移植）	－	草丈　65.7 (66.6)cm　葉数　21.9 (28.2)枚 根周　33.4 (33.7)cm		
てん菜（直播）	+4	草丈　58.5 (59.7)cm　葉数　24.6 (24.8)枚 根周　29.5 (28.9)cm		
牧　草	+1	草丈　74.6 (73.8)cm		
サイレージ用とうもろこし	+10	草丈 333.6(314.2)cm 出葉数17.4 (17.3)枚 稈長 281.0(279.7)cm	乳熟期　8/13 (8/23)	
たまねぎ	+4	球径　75.3 (76.0)mm		

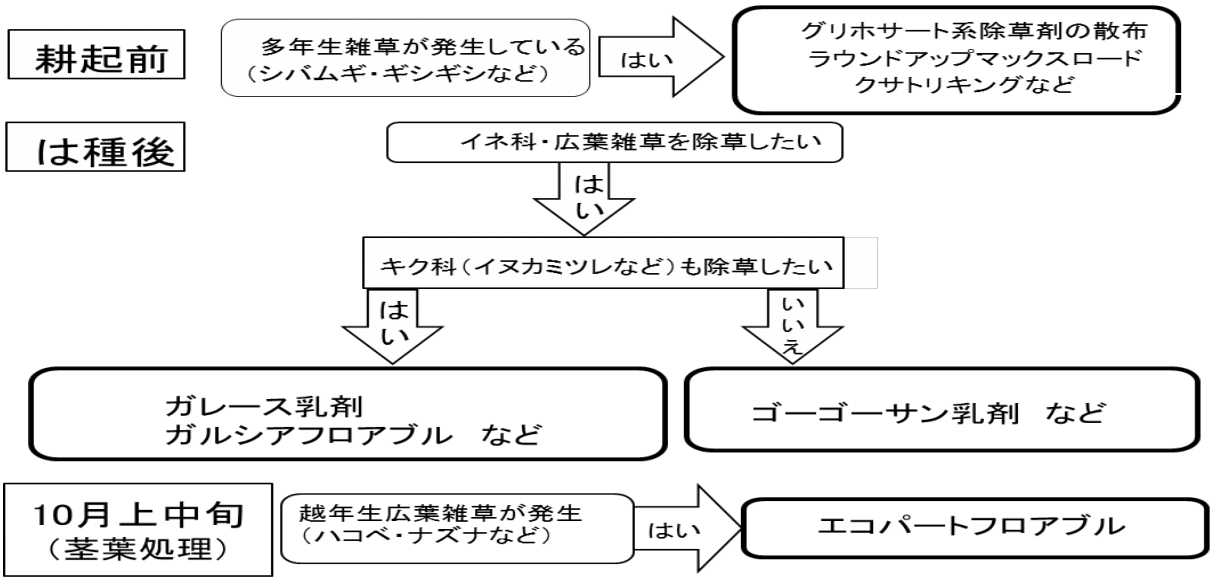
畑　作

＜秋まき小麦＞

1 雑草対策

次年度産秋まき小麦のは種前後の除草は、優占雑草種に応じた除草剤を選択してください。雑草が小麦に与える害としては「養水分の収奪」「病害虫繁殖の助長」などがあり、結果的に収量、品質の低下に繋がります。除草剤を適正に使用し、雑草対策を行ってください。

＜雑草の種類に応じた除草体系例＞



★秋まき小麦ほ場のイネ科雑草は越冬後に対処できません。必ず秋処理を行って下さい。

＜豆　類＞

豆類は全般的に生育が進んでおり、過繁茂で風通しの悪いほ場も散見されますので、このようなほ場では防除の徹底をお願いします。

1　マキバカスミカメの防除（小豆）

近年、小豆のマキバカスミカメによる子実の被害が発生しています。子実の表面に針で刺したような被害が発生します。８月中旬に発生する第２世代の成虫が小豆の莢を吸汁加害するので、この時期に防除しましょう。

また、アズキノメイガも防除時期であることから、アズキノメイガ・カメムシ両方に効果のある薬剤を選択します。

表１　小豆　マキバカスミカメの防除例

農薬名	使用濃度（倍）	使用時期（収穫前）	使用回数（以内）
スミチオン乳剤	1,000	21日	４回

2　小豆　菌核病、灰色カビ病

本年は発生が少ない傾向ですが、過繁茂で風通しの悪いほ場では、防除を検討してください。

４回目の防除を行う際には、前２回とは違う系統の薬剤を使用してください。

3 大豆･小豆 ハダニ

ハダニが寄生すると葉に白い斑点が発生し､多発すると褐変して生育不良を起こします。ほ場でハダニや葉の褐変等を確認した場合は速やかに防除を行いましょう。

表２　ハダニの防除例

対象豆類	農薬名	使用倍率（倍）	使用時期（収穫前）	使用回数（以内）
大豆	トクチオン乳剤	1,000	30日	３回
	コロマイト乳剤	1,500	７日	２回
小豆	トクチオン乳剤	1,000	30日	２回
	コロマイト乳剤	2,000	14日※	２回
	ダニトロンフロアブル	1,000～2,000	７日	１回

※8 月 1 日付け技術情報でコロマイト乳剤の記述が間違えていました。
小豆のコロマイト乳剤の使用時期は収穫 14 日前です。

4 インゲンマメゾウムシの防除（金時、手亡）

インゲンマメゾウムシの成虫は、７月下旬以降に出現し８月上旬～９月上旬に発生が見られ､成熟の早い菜豆が被害を受けやすくなります｡防除時期は下記を目安にして下さい。

金時	莢の色が抜け、白莢が見える時期（８月中旬～）
手亡	子実が大きくなり莢の色が抜け、白莢が見える時期（８月下旬以降）

表３　インゲンマメゾウムシの防除例

農薬名	使用濃度（倍）	使用時期（収穫前）	使用回数（以内）
バイスロイド乳剤	2,000	７日	３回
ダントツ水溶剤	2,000	前日	３回

※莢全体に薬剤がかかるよう､散布水量は多めとする

＜収穫から保管時の注意事項＞

- 成熟期以降は早めに収穫する。
- 収穫した豆は速やかに出荷し､必要以上の長期間の保管は避ける。
- は種時に余った種子は､適正に処分する｡豆の一時保管場所を清掃し､餌となる豆を一年間残さない。

野　菜

＜たまねぎ＞

変形・分球などにより品質低下を防ぐための根切り作業は可能な限り土壌が乾燥した晴天日に実施してください。

（1）根切り作業

根切りの目的は、変形、裂皮、皮ムケ防止や均一な枯葉、着色促進による品質の向上です。適期に根切りを行い、品質低下を防ぎましょう。

○根切り時期の目安

中生～晩生品種	倒伏揃後１０～１４日

○「倒伏期」…茎葉が 80～90%倒伏した時期。
○可能な限り土壌が乾燥した晴天日に行う。
○30℃近くの高温日で日差しの強い日は地上に露出した部分（特に球下半分）に日焼けを生じる恐れがあるため、作業を見合わせる。または、夕方以降に作業する。 加えて、枕地を手掘りして寄せる場合は、茎葉で球を覆い長期間放置しない。
○降雨により枯葉が進まない場合は、再度根切りを行う。

（2）根切り～収穫までの防除

降雨により病害の発生が懸念されます。灰色腐敗病や細菌性病害の被害を防ぐため適期に防除を実施し、被害軽減に努めてください。

表１　根切り～収穫までのたまねぎの防除例

使用時期		薬剤名	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数	成分回数
根切り直後		スミレックス水和剤	1,000	収穫前日	５回以内	１回
収穫直前	通常	トップジン M 水和剤	500～1,000	収穫前日	５回以内	１回
	多雨	ベルクート水和剤	1,000	収穫前日	５回以内	１回

（3）収穫の適期実施

長雨等により収穫が遅れると泥の付着や黒シミの発生等により外観品質が低下します。計画的な根切りとともに、根切り後は茎葉が枯葉したら早めに収穫を行ってください。

・肌腐れ等の障害球が混入しないよう収穫前に除去してください。
・タッピングは首部が十分乾燥してから行ってください。
・収穫後のコンテナは、搬出しやすい排水良好な場所で風乾してください。

（4）苗床における緑肥のすき込み

緑肥をは種した苗床は、出穂始までにすき込んでください。十分に分解させるためには２～３回の土壌混和が必要です。また、土壌混和後は必ず土壌診断を実施してください。

（5）本畑の緑肥栽培

早生品種のほ場では、収穫後に緑肥を栽培して地力維持と病害低減を図りましょう。後作緑肥にえん麦野生種を栽培する場合、可能な限り早めには種してください。は種が９月になる場合は、は種量を 15～20kg/10a と通常よりやや多めにしてください。

＜ヤマノイモ＞

８月 15 日現在の東部管内作況調査では、いも重・茎葉重とも平年を上回り、生育は非常に良好です。葉渋病が発生しているほ場がありますので、ほ場を観察してください。

（1）トレンチャー溝の陥没

降雨によりトレンチャー溝が陥没したほ場は、放置するとその後の降雨で陥没が拡大しやすくなります。形状悪化の原因になるため、通路の土で埋め戻すようにしてください。

（2）葉渋病

病徴：はじめは不規則な黄緑色の小斑点ができ、それが拡大して葉脈に囲まれた多角形の病斑となる。病斑部の中央には黒褐色の小斑点ができ、これが破れ白色の粉（分生子）を出す。激しくなると葉が破れたり、枯死する。

発生環境：夏期の降雨が多い年に発生が多くなる。

防除方法：発生初期にトップジン M 水和剤(800 倍、収穫７日前まで)、アミスター20 フロアブル（2000 倍、収穫前日まで）などで防除しましょう。

～農薬の安全使用と農作業事故防止に努めましょう～

例年、夏から秋の収穫時期に事故が多くなります。

特にハーベスタによる「挟まれ・巻き込まれ」の事故に十分注意しましょう。

☆機械に巻き込まれないよう、だぶつきのない格好で作業しましょう。

☆緊急回転停止装置を複数装備しましょう。

☆選別部に物が詰まった場合は、必ず回転を止めてから除去してください。

☆機械走行中の飛び乗り、飛び降りは絶対にやめましょう。

☆機械周辺では、声を掛け合って事故防止に努めましょう。